第２章　高等学校におけるキャリア教育の理解

第１節　キャリア教育の理解

１　キャリア教育の系譜

① 中教審「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（答申）(1999年12月)

・キャリア教育とは、「学校教育と職業生活の円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」をいう。

・キャリア教育は、学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。

② 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」（報告書）(2004年１月)

・キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」をいう。

・キャリア教育は、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革することを求めるものである。

③ キャリア教育等推進会議「キャリア教育推進プラン」(2007年５月)

・キャリア教育とは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」をいう。

④ 中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）(2011年１月)

・キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」をいう。

・キャリア教育においては、幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じて体系的に実施されるべきであり、様々な活動を通じて、基礎的・汎用的能力を中心に育成する。

２　「キャリア教育」に関する施策の展開

① 教育基本法の改正(2006年)

第２条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

② 学校教育法の改正(2007年)

第21条 義務教育として行われる普通教育は、・・・・目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

２ 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

4　家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。

10　職業についての基礎的な知識と技能・勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

第51条　高等学校における教育は、・・・・目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

1　義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。

2　社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。

3　個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

③ 高等学校学習指導要領の改訂(2009年3月)

・高等学校指導要領総則第５款教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

・教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。

・職業教育に関して配慮すべき事項

学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。

④「４領域８能力」と「基礎的・汎用的能力」の関係

・キャリア教育を通して育成すべき能力として、2002年11月に国立教育政策研究所生徒指導研究センターから「４領域８能力」が示された。

・この「４領域８能力」論は、これまでの進路指導の実践を飛躍的に向上させる論理を示したものとして高い評価を受けているが、一方では画一的な運用、本来目指された能力との齟齬、生涯にわたって育成される一貫した能力論の欠如などの課題も内包していた。

・2011年１月、中教審は、これまでのキャリア教育で残されてきた課題を踏まえ、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)を取りまとめ、今後のキャリア教育がその中心として育成すべき能力として「基礎的・汎用的能力」を示した。

(参考:文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター
「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」2011年3月を基に作成)

⑤ キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

・分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である。

・社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と現在学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成を、キャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義がある。

・基礎となる能力は基礎的・汎用的能力として以下の４つの能力に整理される。

ⅰ 人間関係形成・社会形成能力

・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

・具体的な要素としては、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

ⅱ 自己理解・自己管理能力

・自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

・具体的な要素としては、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

ⅲ 課題対応能力

・仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

・具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

ⅳ キャリアプランニング能力

・「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

・具体的な要素としては、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。

・これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この４つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものでもない。

・これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この４つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成されることが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。

（参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011年1月を基に作成）

⑥ 第２期教育振興基本計画(2013年６月14日閣議決定)

・社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成等：社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、労働市場の流動化や知識・技能の高度化に対応し、実践的で専門性の高い知識・技能を、生涯を通じて身に付けられるようにする。このため、キャリア教育の充実や、インターンシップの実施状況の改善、就職ミスマッチの改善に向けた教育・雇用の連携方策の強化を図る。

・「社会を生き抜く力」の一態様として、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けさせるとともに、職業を通じて社会の一員として役割を果たすことの意義についての理解をはじめとした、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立できる子ども・若者の育成を目指す。

・幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、特に、高等学校普通科におけるキャリア教育を推進する。その際、子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導を進めるとともに、地域におけるキャリア教育支援のための協議会の設置促進等を通じ、職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界と連携・協働した取組を推進する。

３　キャリア教育を通して育成すべき能力についての考え方

①　高等学校段階でのキャリア発達課題

・高等学校では生徒の個性や義務教育までに培った能力や態度を更に伸長させるとともに、学校から社会・職業への移行の準備として専門性の基礎を育成することが求められる。

・高校生の時期は、中学生と比べて、更に、独立や自律の要求が高まるとともに、所属する集団も増え、集団の規律や社会のルールに従い、互いに協力しながら各自の様々な役割や期待に応えて円滑な人間関係を築いていくことが求められる。

・自我の形成がかなり進み、人間がいかにあるべきか考えるとともに、自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指して進んで学習に取り組む意欲を持ち、自己の個性や能力を活かす進路を自らの意志と責任で選択し決定していくことが求められる。

【高等学校段階でのキャリア発達課題とキャリア発達の特徴の例】

<table>
<tr><th colspan="2">高等学校段階でのキャリア発達課題</th></tr>
<tr><td colspan="2">○　キャリア発達段階　→　現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○　キャリア発達課題
・自己理解の深化と自己受容
・選択基準としての勤労観，職業観の確立
・将来設計の立案と社会的移行の準備
・進路の現実吟味と試行的参加</td></tr>
<tr><th colspan="2">高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例</th></tr>
<tr><th>入学から在学期間半ば頃まで</th><th>在学期間半ば頃から卒業を間近にする頃まで</th></tr>
<tr><td>・　新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。
・　新たな環境の中で自らの役割を自覚し，積極的に役割を果たす。
・　学習活動を通して自らの勤労観，職業観について価値観の形成を図る。
・　様々な情報を収集し，それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。
・　進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し，検討する。
・　将来設計を立案し，今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。</td><td>・　他者の価値観や個性を理解し，自分との差異を認めつつ受容する。
・　卒業後の進路について多面的・多角的に情報を集め，検討する。
・　自分の能力・適性を的確に判断し，自らの将来設計に基づいて，高校卒業後の進路について決定する。
・　進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え，実行に移す。
・　理想と現実との葛藤や経験等を通し，様々な困難を克服するスキルを身に付ける。</td></tr>
</table>

（資料出所：文部科学省『高等学校キャリア教育の手引』2011 年 11 月）

② キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

ⅰ「総合的な学習の時間」との関連

・高等学校での総合的な学習の時間は、横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すると共に、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることを目標にしている。

・総合的な学習の時間においては、各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることが求められる。このような教育活動を通して、自己の在り方生き方を考えることができるようにすることが総合的な学習の時間においては重要である。

ⅱ「特別活動」との関連

・特別活動は、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標とする。

・特別活動、とりわけホームルーム活動は、キャリア教育の中核的な実践の場である。ホームルーム活動を中心として特別活動の全体を通じてキャリア教育を実践するに当たっては、社会の一員としての自己の生き方を探究するなど、人間としての在り方生き方の指導が行われるようにすることが不可欠であり、その際、他の教科等、特に公民科や総合的な学習の時間との関連を図ることが特に求められている。

（参考:文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」2013 年 3 月を基に作成）

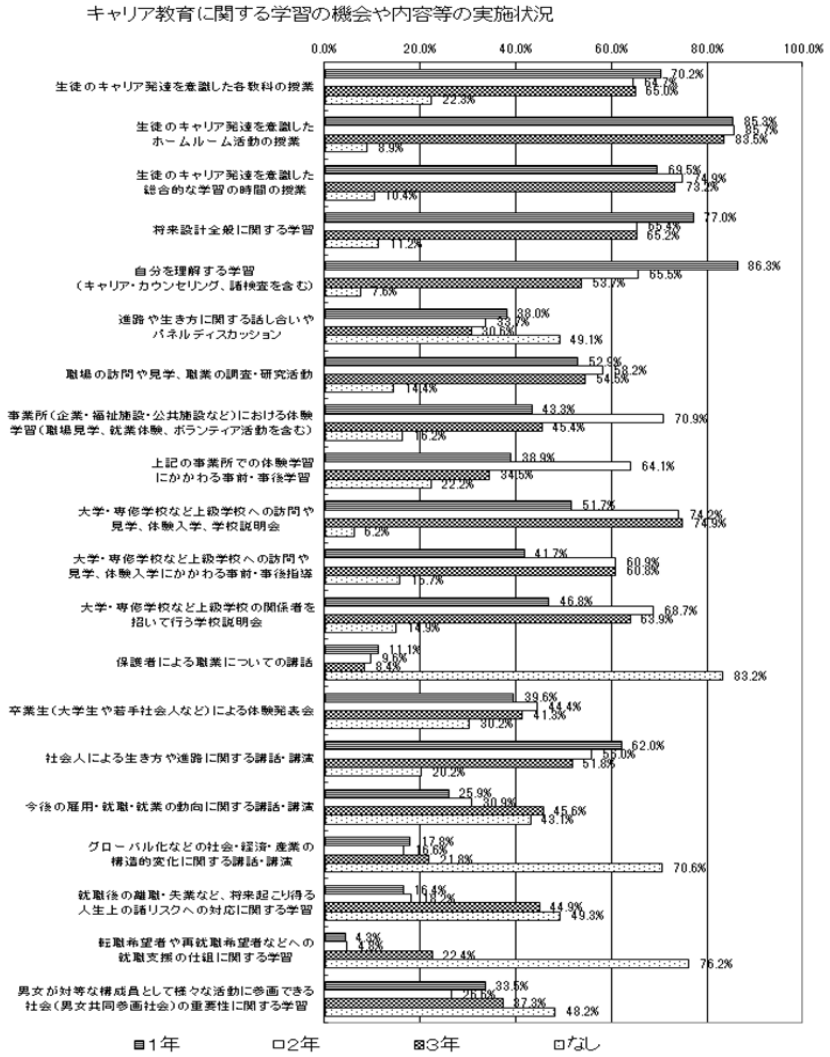
第２節　高等学校におけるキャリア教育の取組み状況と課題

１　キャリア教育の取組み状況

①キャリア教育に関する学習の機会や内容等の実施状況

・全ての学年を通して回答が多いのは、「生徒のキャリア発達を意識したホームルーム活動の授業」（１年が85.3%、２年が85.7%、３年が83.5%）、「生徒のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間の授業」（１年が69.5%、２年が74.9%、３年が73.2%）、「将来設計全般に関する学習」（１年が77.0%、2年が65.4%、３年が65.2%）、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリング、諸検査を含む）」（１年が86.3%、２年が65.5%、３年が53.7%）である。

・「なし」の回答は、「保護者による職業についての講話」が83.2%と最も高い。次いで「転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組に関する学習」が76.2%、「グローバル化など社会・経済・産業の構造的変化に関する講話、講演」が70.6%、「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習」が49.3%等である。

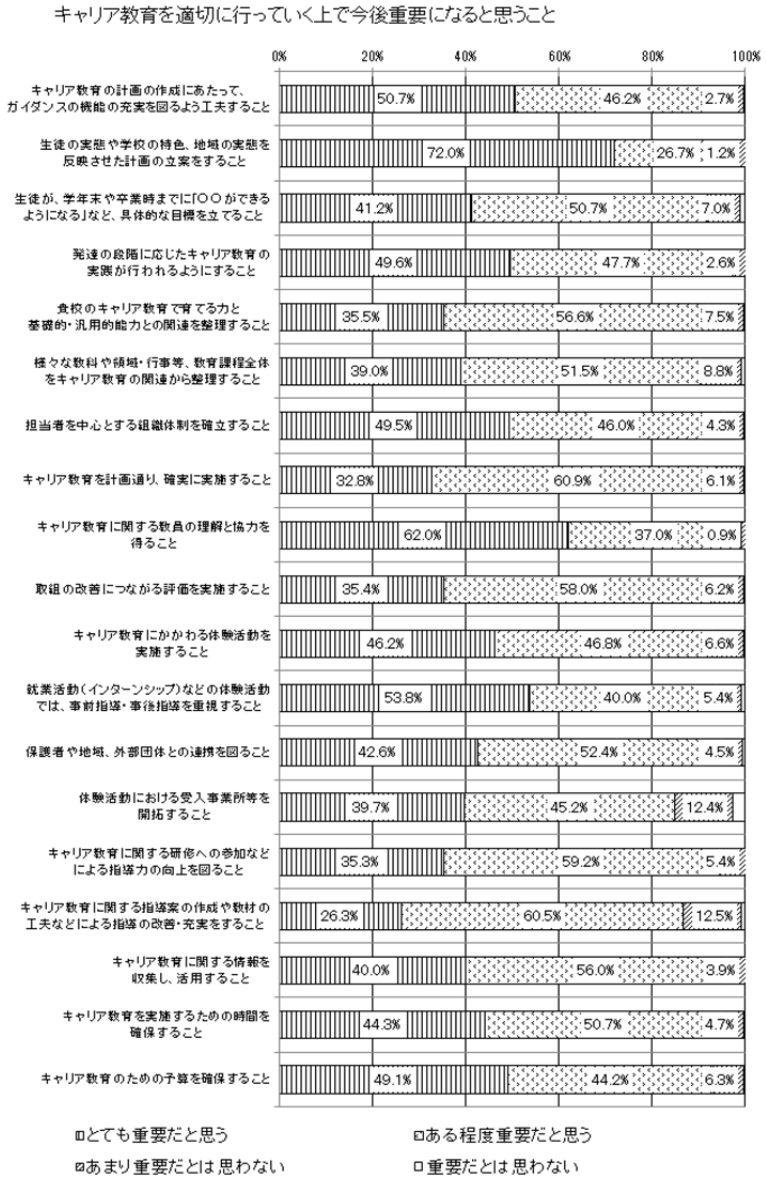


（資料出所：国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

② キャリア教育を適切に行っていく上で今後重要になると思うこと

・「とても重要だと思う」という回答では、「生徒の実態や学校の特色、地域の実態を反映させた計画の立案をすること」が72.0%と最も高い。次いで「キャリア教育に関する教員の理解と協力を得ること」が62.0%、「就職体験(インターンシップ)などの体験活動では、事前指導・事後指導を重視すること」が53.8%、「キャリア教育の計画の作成にあたって、ガイダンスの機能の充実を図れるように工夫すること」が50.7%、「発達の段階に応じたキャリア教育の実践が行われるようにすること」が49.6%等の順である。

・低いのは、「貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること」が35.5%、「取組の改善につながる評価を実施すること」が35.4%、「キャリア教育に関する研修への参加などによる指導力の向上を図ること」が35.3%、「キャリア教育を計画通り、確実に実施すること」が32.8%、「キャリア教育に関する指導案の作成や教材の工夫などによる指導の改善・充実をすること」が26.3%等である。



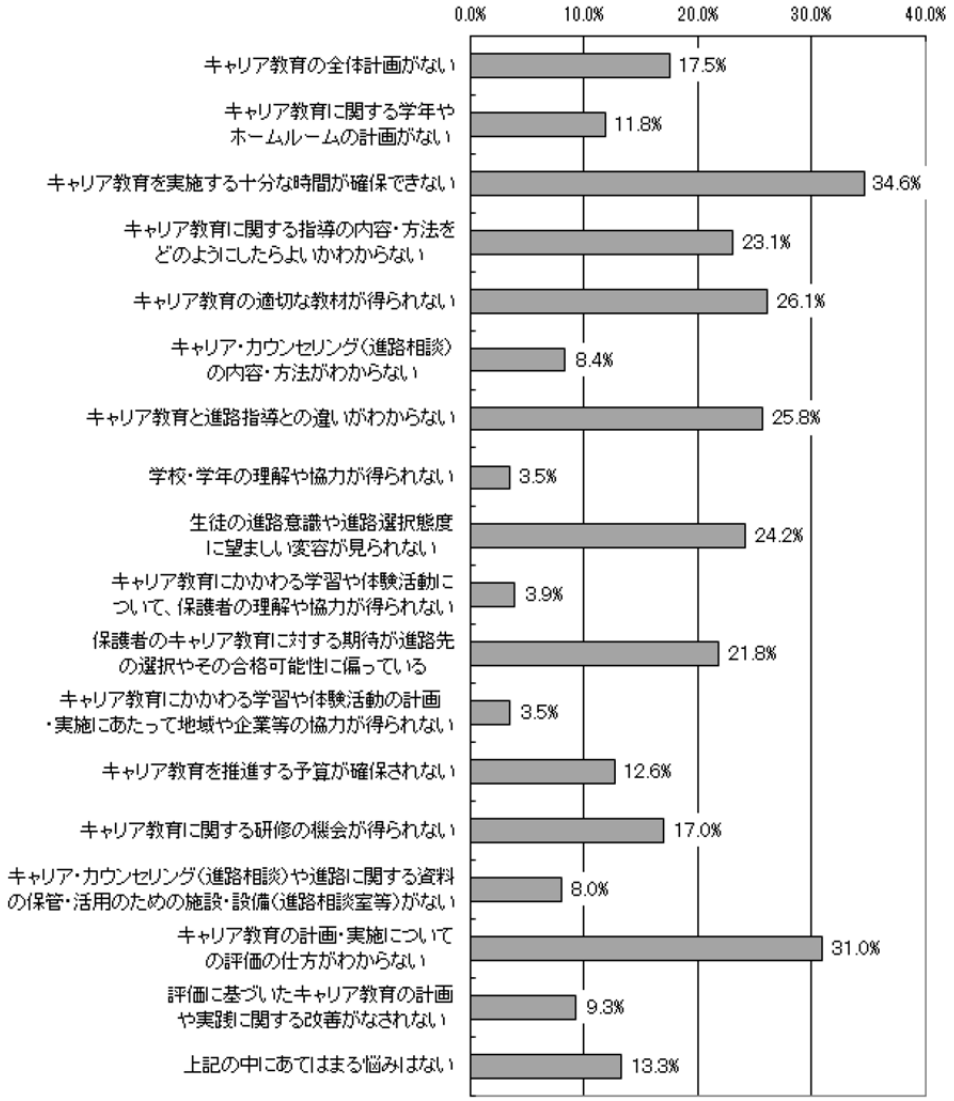
(資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

③ ホームルームのキャリア教育について困ったり悩んだりしていること

・「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」が34.6%と最も高い。次いで「キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない」が31.0%、「キャリア教育の適切な教材が得られない」が26.1%、「キャリア教育と進路指導との違いがわからない」が25.8%、「生徒の進路意識や進路選択態度に望ましい変容が見られない」が24.2%、「キャリア教育に関する指導の内容・方法をどのようにしたらよいかわからない」が23.1%、「保護者のキャリア教育に対する期待が進路先の選択やその合格可能性に偏っている」が21.8%等の順である。

・低いのは、「キャリア・カウンセリング(進路相談)の内容・方法が分からない」が8.4%、「キャリア・カウンセリング(進路相談)や進路に関する資料の保管・活用のための施設・設備(進路相談室等)がない」が8.0%、「キャリア教育にかかわる学習や体験活動について、保護者の理解や協力が得られない」が3.9%、「学校・学年の理解や協力が得られない」と「キャリア教育にかかわる学習や体験活動の計画・実施にあたって地域や企業等の協力が得られない」が3.5%等である。

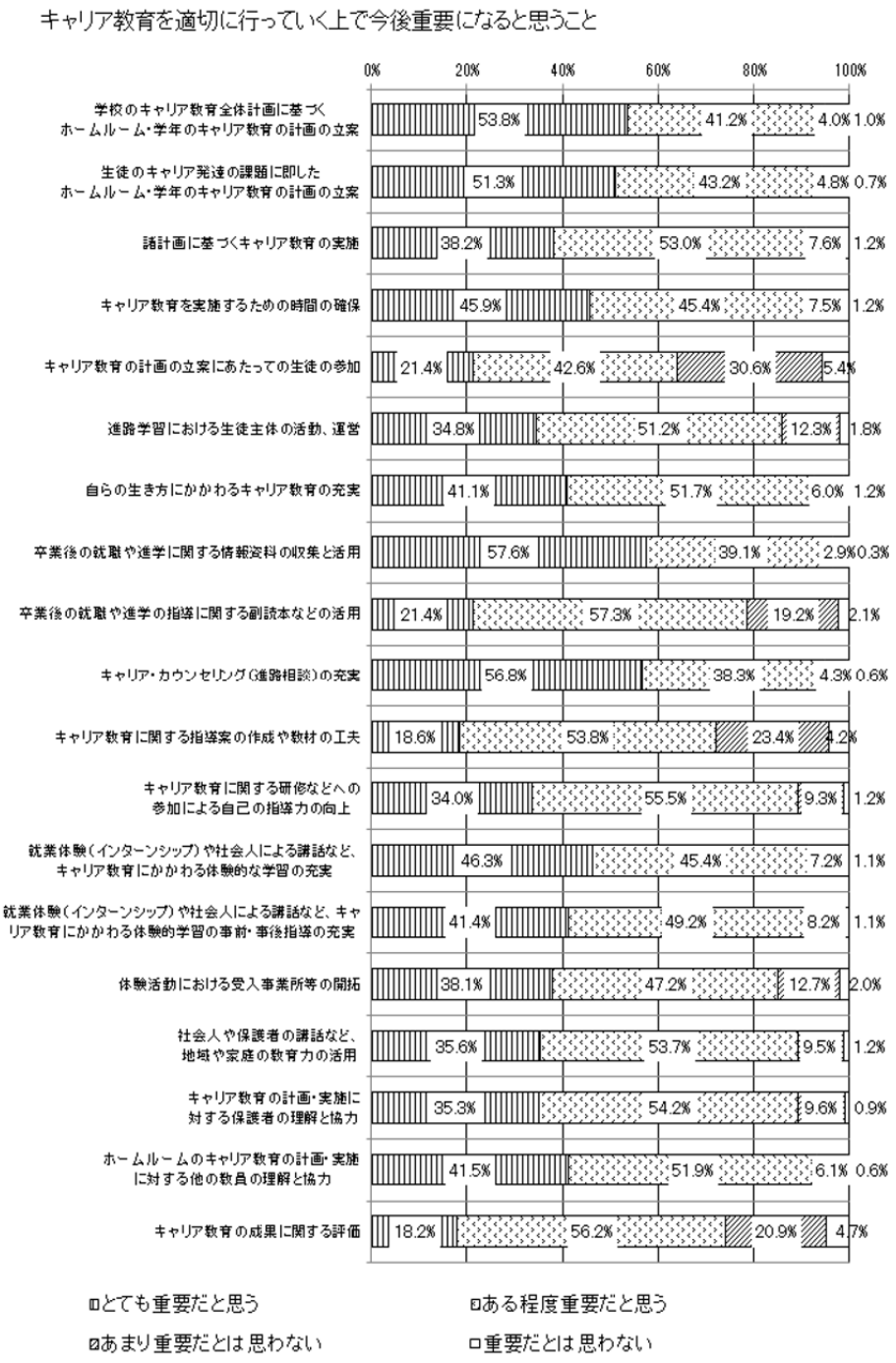
ホームルームのキャリア教育について困ったり悩んだりしていること



(資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

④　ホームルームでキャリア教育を適切に行っていく上で今後重要になること

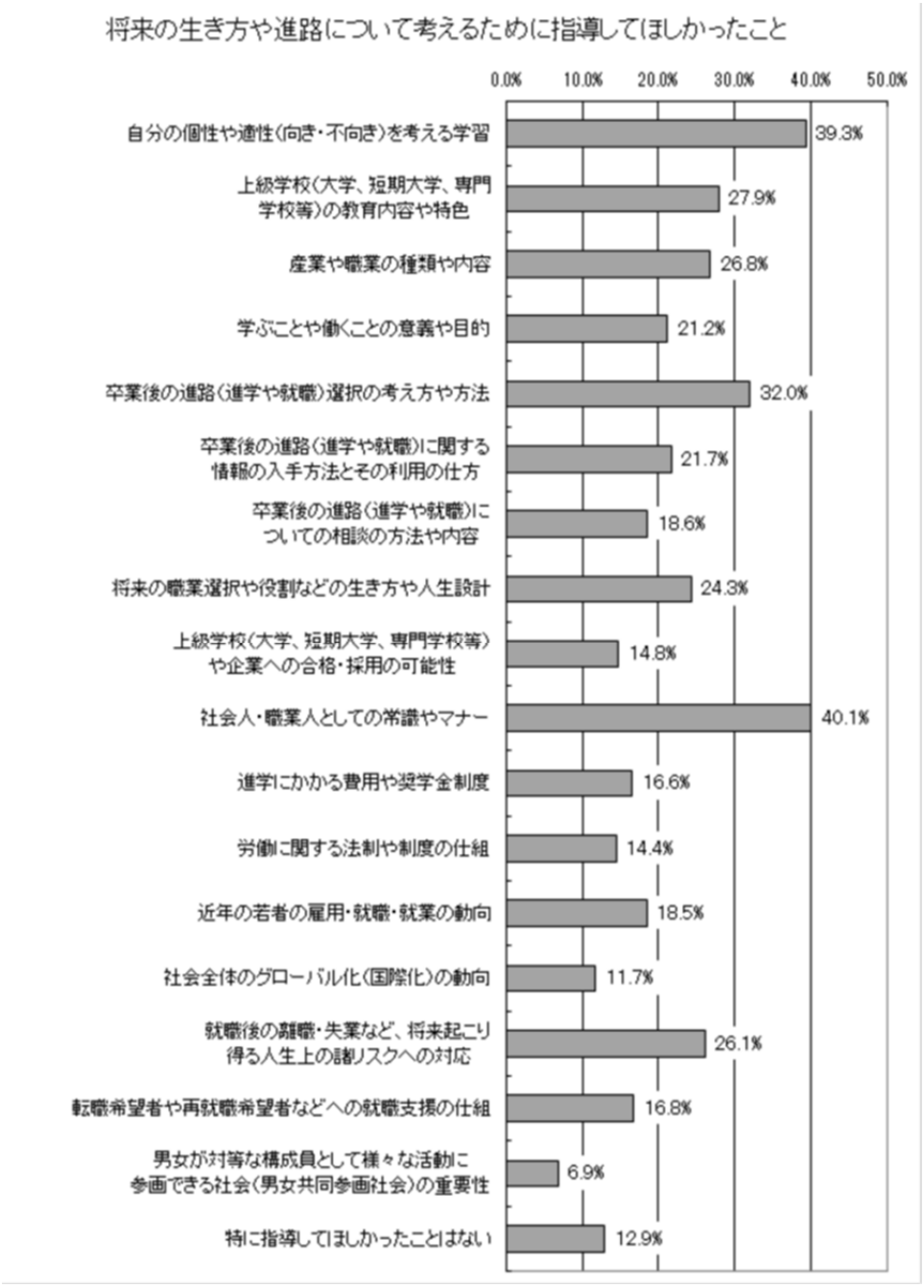
・「とても重要だと思う」ことは、「卒業後の就職や進学に関する情報資料の収集と活用」が57.6%と最も高い。次いで「キャリア・カウンセリング(進路相談)の充実」が56.8%、「学校のキャリア教育全体計画に基づくホームルーム・学年のキャリア教育の計画の立案」が53.8%、「生徒のキャリア発達の課題に即したホームルーム・学年のキャリア教育の計画の立案」が51.3%、「就業体験(インターンシップ)や社会人による講話など、キャリア教育にかかわる体験的な学習の充実」が46.3%等の順である。



(資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

⑤将来の生き方や進路について考えるために指導して欲しかったこと

・「社会人・職業人としての常識やマナー」が40.1%と最も高い。次いで「自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習」が39.3%、「卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法」が32.0%等である。



（資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導所究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

⑥ キャリア教育や進路指導において保護者が期待する学習内容

・「とても期待している」と「ある程度期待している」を合わせると、「適切な進路選択の考え方や方法についての学習」が90.7%と最も高い。次いで「進路に関する情報の入手とその利用の仕方に関する学習」が89.8%、「自分の個性や適性(向き・不向き)を理解するための学習」が89.3%、「学ぶことや働くことの意義を考えさせる学習」が88.1%、「上級学校(大学・短大・専門学校等)などの入試制度や就職試験の仕組についての学習」が87.8%等の順である。

キャリア教育や進路指導において期待する学習内容

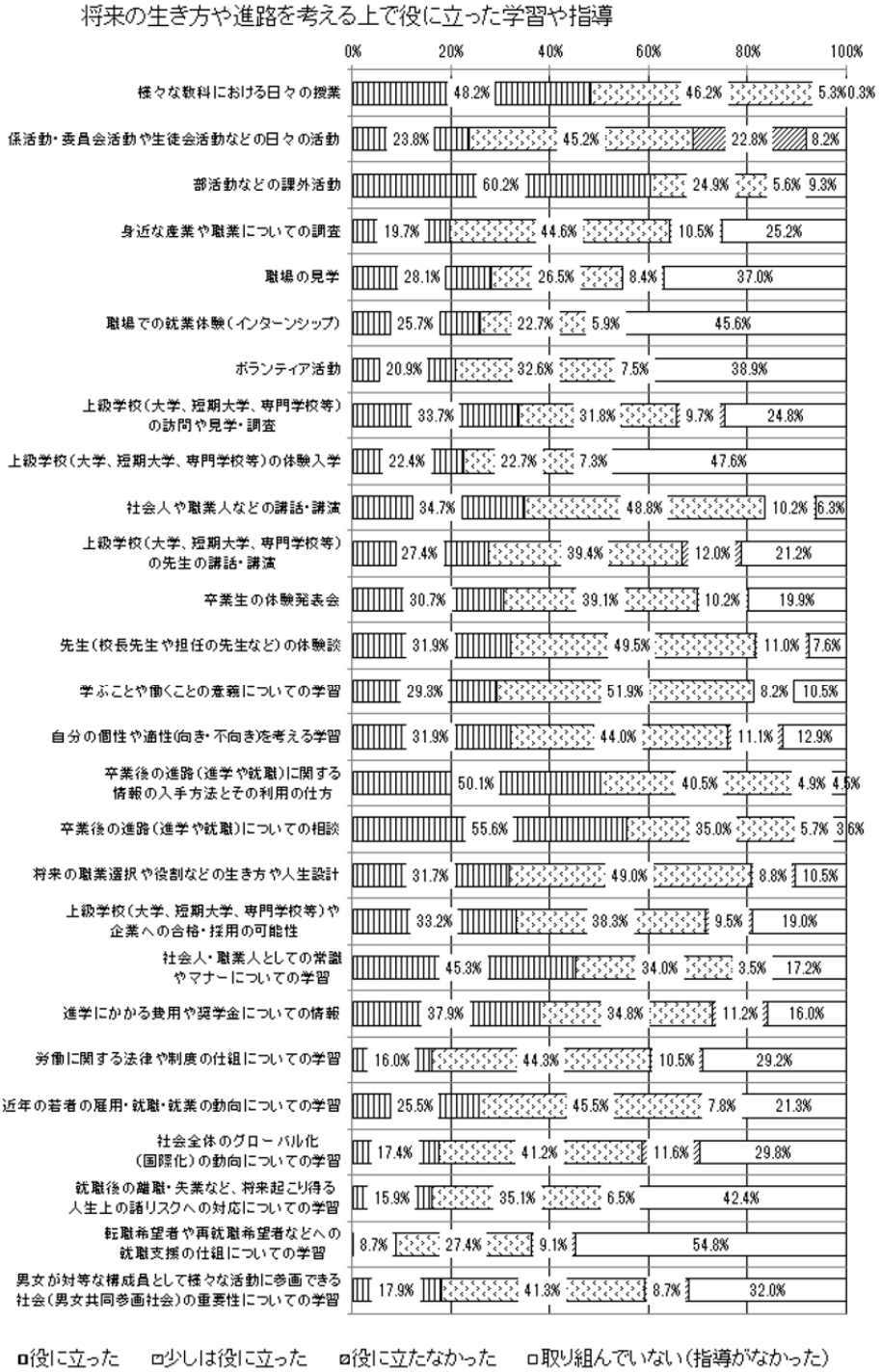


(資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

⑦ 学生が高等学校時の将来の生き方や進路を考える上で役に立った学習や指導

・「役に立った」との回答割合が最も高い項目は、「部活動などの課外活動」の60.2%である。次いで「卒業後の進路（進学や就職）についての相談」が55.6%、「卒業後の進路（進学や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方」が50.1%である。

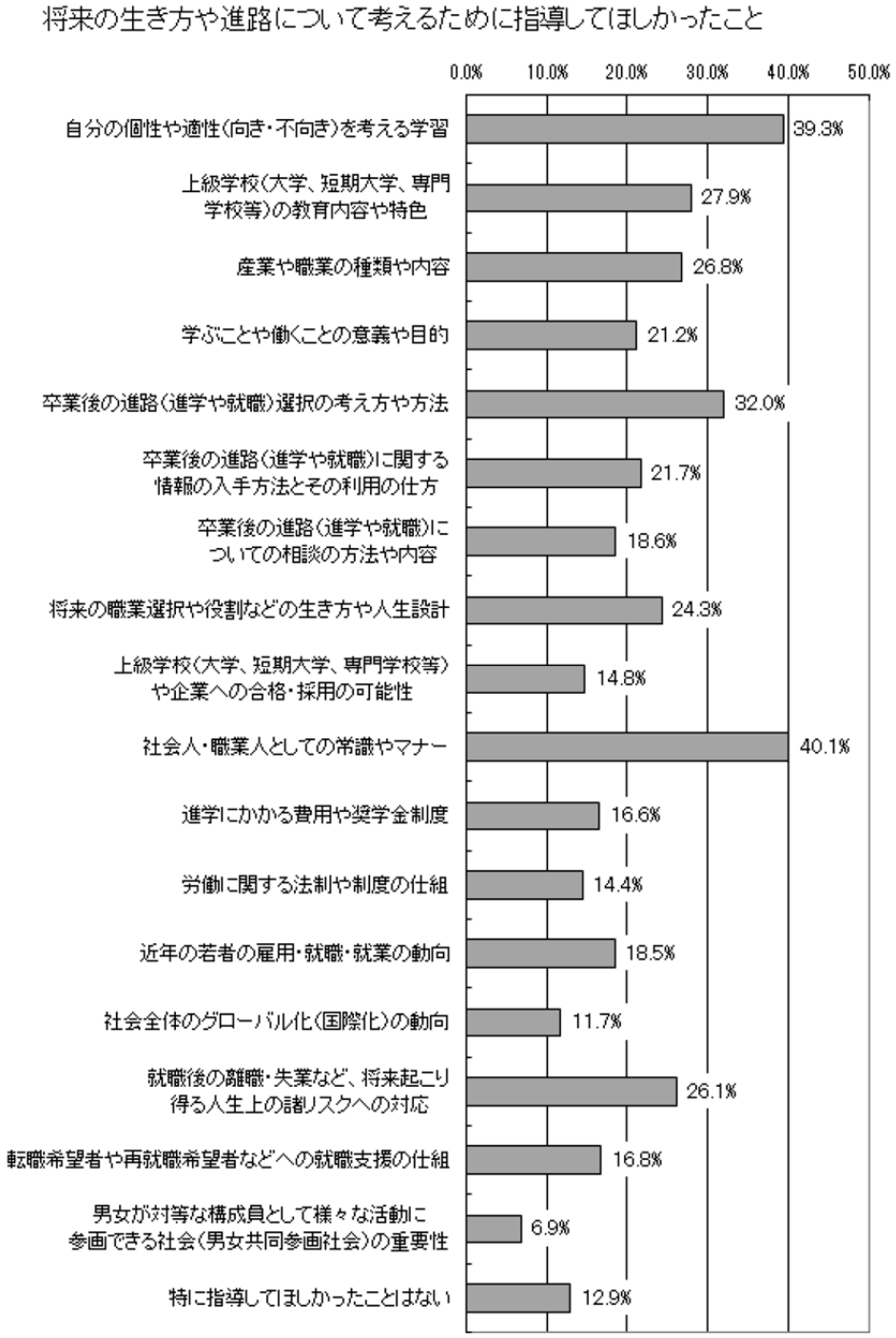
・「役に立たなかった」との回答割合が最も高いのは、「係活動・委員会活動や生徒会活動などの日々の活動」が22.8%である。次いで「上級学校（大学・短大・専門学校等）の先生の講話・講演」が12.0%、「社会全体のグローバル化（国際化）の動向についての学習」が11.6%である。



（資料出典：国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

⑧ 高校生の時に、将来の生き方や進路（進学や就職）を考えるために指導してほしかったこと

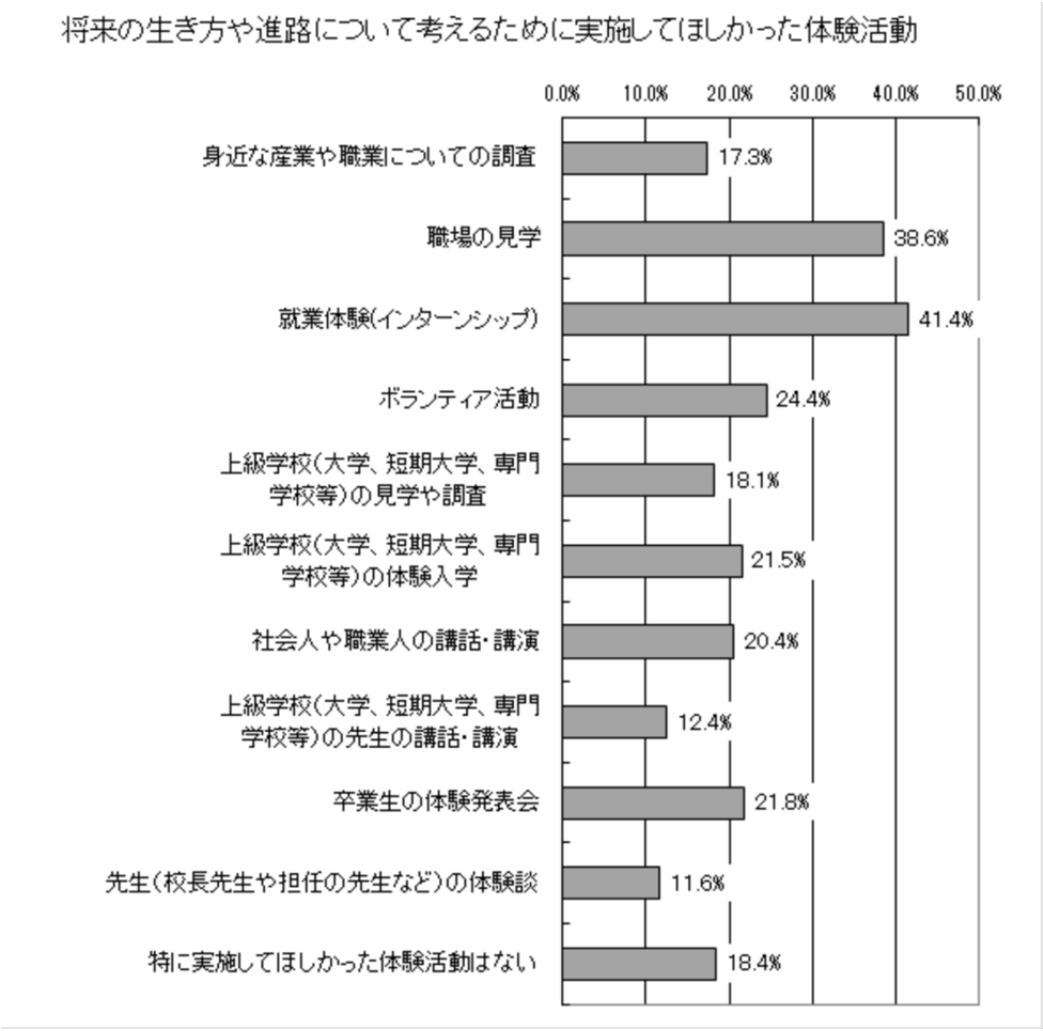
・「社会人・職業人としての常識やマナー」が40.1％と回答が最も多い。次いで「自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習」が39.3％、「卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法」が32.0％、「上級学校（大学・短大・専門学校等）の教育内容や特色」が27.9％、「産業や職業の種類や内容」が26.8％、「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」が26.1％である。



（資料出所：国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

⑨ 高校生の時に、将来の生き方や進路を考えるために実施してほしかった体験活動

・「就業体験(インターンシップ)」を挙げた卒業生が41.4%と最も多い。次いで「職場の見学」が38.6%、「ボランティア活動」が24.4%、「卒業生の体験発表会」が21.8%、「上級学校(大学・短大・専門学校等)の体験入学」が21.5%、「社会人や職業人の講話・講演」が20.4%の順である。



(資料出所:国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

２　高等学校におけるキャリア教育・職業教育の課題

① 高等学校のキャリア教育・職業教育の課題と基本的考え方

・高等学校の普通科で学ぶ生徒数が70％を超え、そのうち高等教育機関への進学率が75％を超えている。高等教育機関への進学希望者の中には、将来の生き方・働き方について考え、選択・決定することを先送りする傾向が強く、多くの生徒にとって、高等学校は高等教育機関への通過点となり、進路意識や目的意識が希薄なままにとりあえず進学している者がいる状況がうかがえる。

・一方、普通科から就職する者も依然として多く存在するが、学科別の就職状況をみると、普通科は他の学科と比べて厳しい状況に置かれているのが最近の傾向であり、普通科の生徒に対し、職業に従事するために必要な知識・技能をどのように育成するかが課題となっている。

・専門学科で学ぶ生徒の割合は、約23％(職業に関する学科については約20％)となっている。専門学科卒業者の高等教育機関への進学率は年々増加し、現在では約半数となっており、高等教育との接続を視野に入れた職業教育の充実が求められている。

・専門学科を卒業した者のうち約40％が就職しており、地域産業の中で専門学科の卒業生に対する人材の需要が存在する分野がある一方で、職業人として必要な専門的な知識・技能が高度化している分野があることや、職業が多様化しているにも関わらず、その対応が不十分であることが指摘されている。

・総合学科で学ぶ生徒は、約５％である。総合学科導入以来、設置数は年々増加し、教育と職業との接続、生徒の学校から社会及び高等教育機関への円滑な移行について一定の成果を上げている学校がみられる一方で、総合学科全体としてみた場合、導入時期に期待されていた教育の特色をいかし、その役割を果たすことができているかどうかを含め、現時点での成果と課題の検証が必要であることが指摘されている。

・高等学校教育修了までに、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を身に付けさせ、これらの育成を通じて、価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立させることを、キャリア教育の視点から見た場合の目標として設定し、キャリア教育の取組を一層充実することが重要である。

・一方、職業の多様化等に伴い、生徒のキャリア形成に関する環境や意識等の多様化も進んでおり、一人一人の状況に応じた対応にも配慮することが必要である。

・専門教育や職業・実際生活に必要な能力の育成が始まる高等学校教育においては、キャリア教育の視点だけでなく、専門的な知識、技能、能力や態度を育成し、職業へ円滑に移行する準備及び自己の将来の可能性を広げていくことができる職業教育の充実を図ることが重要である。

(参考:中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
(答申)2011年1月を基に作成)

３　高等学校におけるキャリア教育の方向性と推進方策

① 学科の特質に応じて育成すべき「基礎的・汎用的能力」

・高等学校においては、社会的・職業的自立に必要な「基礎的・汎用的能力」を育成するために、各学科の特色に応じた取組が必要となる。各学科において「基礎的・汎用的能力」を育むためには、次のような視点が考えられる。

すべての学科に共通して育成すべき力の例

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
他者の個性を理解する力，他者に働きかける力，コミュニケーション・スキル，チームワーク，リーダーシップなど	自己の役割の理解，前向きに考える力，自己の動機付けや忍耐力，ストレスマネジメント，主体的な行動力など	情報の理解・選択・処理，本質の理解，原因の追求，課題発見，計画立案，実行力，評価・改善など	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解，多様性の理解，将来設計，選択・行動と改善など

（資料出所：文部科学省『高等学校キャリア教育の手引』2011 年 11 月）

学科の特質に応じた育成の視点の一例

学科	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
普通科	ホームルームでの話合い活動などを通じて，相互理解を図るとともに，協力して物事に取り組む意識・態度を養う。	社会人講話や就業体験などの啓発的な体験を通じて，自己の適性等を知り，主体的に行動し，自ら進んで学ぼうとする力を育成する。	具体的な課題を設定して行うディベートなどの学習を通じて，課題の本質を理解し，その課題を解決することができる力を育成する。	「大学の向こうにある社会」を認識し，将来の職業を意識して，計画的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。
専門学科	実習などの体験的な学習を通して，多様な他者の個性を理解するとともに，協力・協働していく力を育成する。	専門的な学習と産業や職業との関連を知ることを通じて，自らの役割を理解し，主体的に行動していく力を育成する。	「課題研究」や「総合的な学習の時間」などの学習を通じて，様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立て，その課題を解決することができる力を育成する。	将来の社会生活・職業生活に必要となる力を理解するとともに，卒業後も継続して職業資格の取得などに取り組む態度を育成する。
総合学科	「産業社会と人間」での学習を通じて，多様な他者との関わりの中で，円滑な人間関係などを形成する。	職業人インタビューや就業体験など啓発的な体験活動を通じて，職業の実際や自分の適性等を知り，自己の興味・関心の所在や適性等を知る。	「総合的な学習の時間」などにおいて，課題解決のための道筋を立て，多様な他者の協力を得て課題解決を図る力を育成する。	３年間の履修計画を作成し，自分の興味・関心や将来と結び付いた学習計画を立案する。様々な産業の種類や内容，課題などについて理解し，興味・関心をもつ。

（資料出所：文部科学省『高等学校キャリア教育の手引』2011 年 11 月）

② 高等学校普通科におけるキャリア教育の課題と推進方針

・キャリア教育を実施していない高等学校が依然として存在するとともに、単に職業教育を行えばキャリア教育を実施したことになると考えているケースが見受けられる。また、高等学校のキャリア教育として、何を目指しているのかが必ずしも明確になっていないために、その重要性が十分認識されておらず、適切なキャリア教育が行われていないことがある。

・普通科の生徒に多い進学希望者の中には、将来の生き方・働き方について考え、選択・決定することを先送りする傾向が強いことが伺える。一方で、学科別の就職状況をみると、普通科は他の学科と比べて厳しい状況に置かれているのが最近の傾向であることから、普通科におけるキャリア教育の充実を優先的に検討していく必要がある。

・また、学校の授業を十分に理解することができていない生徒も存在するとともに、様々な課題を抱え職業に対する知識や準備ができないまま社会に出る生徒もいることから、基礎学力や職業に必要な能力の育成とともに、学校への定着(中退の防止)を図るという観点から、キャリア教育の取組みの充実により、学習意欲の向上につなげていくことが重要である。

・高等学校の段階においては、自らの将来のキャリア形成を自ら考えさせ、選択させることが重要であることから、学科や卒業後の進路を問わず、現実的に社会・職業の理解を深めることや、自分が将来どのように社会に参画していくかを考える教育活動等を指導計画に位置づけて実施することが重要である。

・社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成することに取り組むべきである。特に、高等学校の段階は、社会人・職業人としての自立が迫られる時期であることから、生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成がとりわけ重要な意味をもつ。この能力や態度を各学校でどの程度育成するか、地域や生徒の実態に即しつつ、学校ごとに到達目標を明確に設定することが求められる。

・キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を、教科・科目等を通じて理解させるべきである。特に高等学校の段階は、学校と家庭以外での生活や社会の中での活動が増える時期にもかかわらず、現在の高校生は社会の仕組みや様々な状況に対処する方法を十分には身に付けていないと指摘されており、知識として学ぶことと体験を通して学ぶこととの両面から、現実社会の厳しさも含めて、一人一人の将来に実感のあるものとして伝えることが特に重要である。

・卒業生・地域の職業人等とのインタビューや対話、就業体験活動等の体験的な学習の機会を、計画的・体系的なキャリア教育の一環として十分に提供し、これらの啓発的な経験を通して、進路を研究し、自己の適性の理解、将来設計の具体化を図らせるべきである。

・これらの学習を通して、生徒が自らの価値観、とりわけ勤労観・職業観を形成・確立できるようにするべきである。

・普通科においては、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、職業生活を送るための基礎的な知識・技能に関する学習機会の充実に努めることが必要である。

・普通科における職業科目(家庭、情報等)の履修は、より具体的な職業との関連を意識した学習を通じたキャリア教育の実践にもなることを十分考慮し、各学校において、職業科目の教育課程上の位置付けや履修指導の方法等の見直しを図りつつ、その機会を確保していくことが必要である。

・進路指導は、本来、生徒の個人資料・進路・情報・啓発的経験及び相談を通じて、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいかという長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。進路指導のねらいは、キャリア教育の目指すところとほぼ同じである。しかし、実際に学校で行われている進路指導においては、進路指導担当教員と各教科担当の教員との連携が不十分であること、一人一人の発達を組織的体系的に支援するといった意識や姿勢、指導計画における各活動の関連性や体系性等が希薄であり、子どもたちの意識の変容や能力や態度の育成に十分に結びついていないという指摘がある。各学校は、自校におけるこれまでの進路指導の実践をキャリア教育の視点から捉え直し、その在り方を見直すことが必要である。

（参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011 年 1 月を基に作成）

③ 専門学科における職業教育の推進方策

・現在の専門学科は、職業の多様化、職業人として求められる知識・技能の高度化への対応が求められていることから、職業人としての自己学習力や社会の中での自らのキャリア形成を計画・実行できる力等を育成していくことが必要である。

・専門学科においては、卒業後の進路を問わず、将来にわたって職業人として必要とされる専門的な知識・技能の高度化に対応できる力の育成が必要である。また、産業・社会が高度化・複雑化する中で、新しい分野・職業等が日々生まれており、このような職業の多様化に対応できる人材の育成も求められる。

・それぞれの職業に就くに当たって、必要な基礎的・汎用的能力や専門的な知識・技能を備え、あるいは、今後このような能力が伸びていく可能性を有するとともに、自立して行動できる態度・価値観を持ち、それらの能力等を生涯にわたって発揮できる力を育成することが重要である。

（参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011 年 1 月を基に作成）

④ 総合学科における今後の在り方

・総合学科の本来の目的である、生徒に目的意識や将来の進路への自覚を持たせるための学習を進めることが難しい状況にあるなど、その特色をいかすための教育活動をさらに充実するための方策が必要である。

・各学校・教育委員会においては、高等学校の教職員の総合学科に対する理解を促進するとともに、生徒に目的意識や将来の進路への自覚を持たせるための教育活動の充実や、そのための教育環境の充実に努めることが必要である。

・総合学科の本来の目的である、生徒が主体的に選択して学習するという教育を実施し、将来の進路への自覚を促すためには、普通教科・専門教科ともに幅広く開設し、多様な分野の学習機会を保障するための条件整備が不可欠である。

（参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）2011 年 1 月を基に作成）